

アライグマ対策の現場 ～亀岡市の戦い～

亀岡市経済部農林整備課

- 1 亀岡市アライグマ防除計画の立案まで
- ・平成14年度頃よりアライグマの野生化が確認
 - ・農作物が食害
(スイカ・ジャガイモ、トウモロコシ、イチゴなど)
 - ・民家の天井裏への侵入、文化財の損壊



捕獲オリの貸し出しだけでは対応しきれなくなってきた。

アライグマによる農作物の被害状況

平成15～18年度 平均	いも類	野菜類等	合計
被害面積 (ha)	0.12	0.10	0.22
被害量 (t)	1.80	0.54	2.34
被害金額 (千円)	48.78	14.52	633.00

平成19年度	いも類	野菜類等	合計
被害面積 (ha)	0.30	3.86	4.16
被害量 (t)	1.16	35.79	36.95
被害金額 (千円)	313	5,465	5,778.00

2 計画概要

- ・外来生物法に基づくアライグマ防除計画を立案
- ・生活環境、農作物の被害の軽減を目標とする

被害住民にとって、獣害は突然降りかかってきた災害のようなものであり、被害者意識が強い。そのため、対策は行政が中心に行うものであるという考えが主流を占める。しかし、集落が受け身の姿勢であれば、いつまでたっても地域の被害軽減は望めない。
(農林水産省：野生鳥獣被害防止マニュアル―実践編―)

そこで 亀岡市と地元自治会及び農家組合が協力して
地域ぐるみで取り組み
亀岡市は京都府・亀岡市の施設を活用し、捕獲後の処分を行う役割を担う

3 特定外来生物の種類

プロキユオン・ロトル (アライグマ)

4 防除を行う区域

亀岡市全域

5 防除を行う期間

平成19年8月1日から平成23年3月31日

6 目標

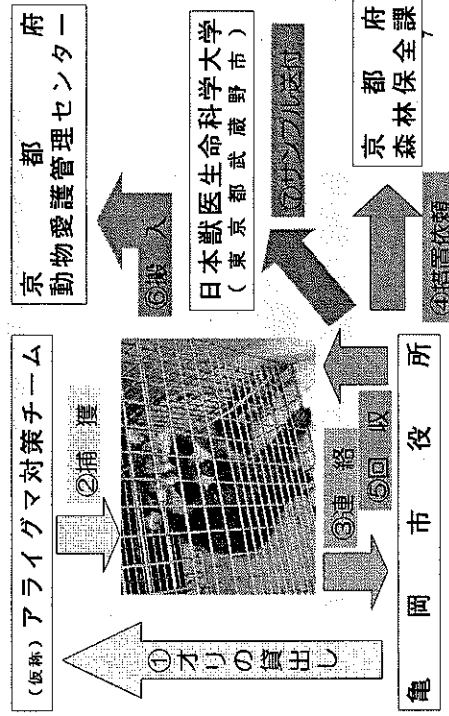
新たな定着又は生息域の拡大を防ぎ、最終的には防除を行う区域から完全排除することを目的とするが、当面4年間の目標としては防除を行う区域における被害の低減を図る。

7 実施体制

・ 農林整備課を担当部署とし、農業経営、畜産、観光、文化財管理、公害対策や感染症対策、火葬場などの生活施設管理などのセクションとの協働を目指す。

・ 地域には、自治会、農家組合等の既存組織を基盤として、地域ごとに「(仮称)アライグマ対策チーム」を組織する。対策チームは、本市との連絡係や市民への捕獲に際する教育などを担う牽引役を、自治会や農家組合等から数名置き、捕獲及び生息の確認には地域市民全員が一丸となって当たられるようにする。

8 捕獲体制フロー図



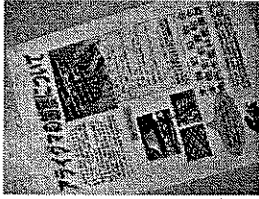
1 オリの貸与

- ・ オリの設置は借主の所有地内
- ・ オリ及びえさの管理については借主が行う
- ・ 回収は市で行うが、措置日の関係で毎週火・木曜日の午前中 (回収日前日の午前中までに連絡)
- ・ 捕獲した場合は、電話で市へ連絡
...捕獲日時、(できれば)幼獣or成獣を確認
※ 現状、市役所での保管場所が確保できないため
回収日まで個人保管
- ・ オリの使い方の説明

実施地域について

- 平成19年度 西別院町(オ/130基賞与)
- 平成20年度 本梅町(オ/130基賞与)
- 平成21年度 東本梅町(オ/120基賞与)

地域で捕獲に取組んでもらう場合は、オJの使い方や捕獲方法等、専門家の指導の下、セミナーを開催します。



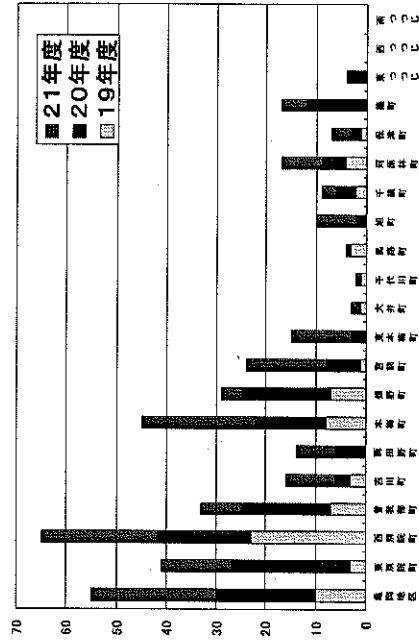
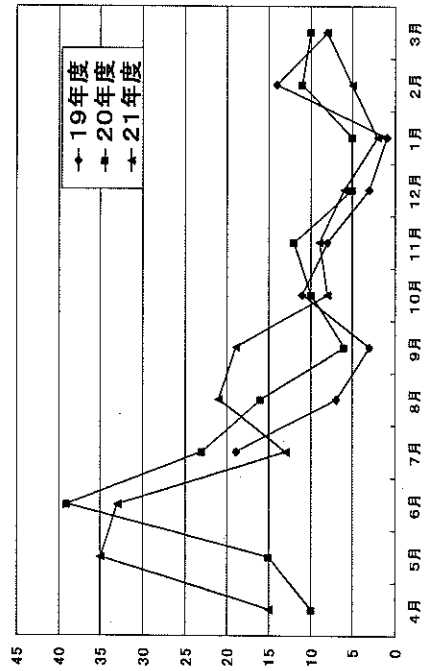
地域住民の方に被害現状や対策方法等の情報を共有してもらうことにより、効果的な捕獲を進める。

捕獲実績

平成19年度	平成20年度	平成21年度	3合	年計
109頭	162頭	174頭		445頭



平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
14頭	41頭	33頭	27頭



捕獲の傾向

- ・4月から6月頃に捕獲数が急激に増加する。
- ・その後は減少し1月頃が底となり、再び増加。
- ・西別院町、本梅町、東本梅町をモデル地区に指定。捕獲数は増加傾向。
- ・西部、南部地域の捕獲数が突出している。
- ・川東地域については、近年増加傾向にある。
- ・市街地は捕獲数が少ないが、亀岡地区は非常に多い(社寺や南郷池周辺で多数捕獲)
- ・つつじヶ丘については、山には面しているものの、田畑は無く木造建築が少ない。

山林、農地、木造建築の多い川東方面への侵入を防ぎつつ、西部、南部地域の捕獲を強化する必要がある。

13

南丹・中丹地域生物多様性協議会の設立

アライグマ措置装置を府・市町共同で国の補助金を活用し購入。獣医師は不要で市町職員のみで殺処分することとする。購入後のランニングコストは府、市町で折半する。装置の設置箇所は園部で検討する。

京都府が所管する園部の施設では了解が得られず、設置箇所の調整に難航。

最終的にH22年度から和知森林技術センターへ・・・

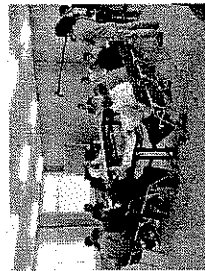
14

アライグマ追跡調査

関西野生物研究所が、捕獲したアライグマに発信機を取り付け追跡調査をすることになり、西別院、本梅、宮前の関係者に説明会を実施。

6月17日に最初のアライグマに発信機を取りつけることに成功。

追跡調査がスムーズに行えるようにサポートします。



15

アライグマは減っているのか？

捕獲数減や誤捕獲の増加から減少していると考えられる。

しかし、罠にかからない個体は増加している。

今後の課題

- ・減少後再び増加する可能性もあり、現状以上の捕獲体制を確立する為情報を発信していく必要がある。
- ・罠にかからない個体対策を検討。
- ・モデル地区の追加(宮前町)。
- ・追跡調査結果をフィードバックし対策を検討。

16